

会員寄稿

私の育友会活動

支部懇談会をお訪ねして

8月25日(土) 長崎、26日(日) 佐賀

育友会副会長 宮下茂樹



この秋号が皆様のお手元に届くころには、さすがに涼しくなって冬の足音が聞こえている頃かと思います。思い出してみると今年の夏は本当に暑い夏でした。半世紀以上?生きてきた自分にとっても記憶にないレベルの暑さで、皆さんも大変だったかと思います。

また、台風による風や水の被害、北海道の地震など、被災された皆様にとりましても、忘れようのない、厳しい夏になってしまいました。お見舞い申し上げます。

まだまだ暑かった8月の後半、台風20号が過ぎ去った直後、支部懇談会出席のため長崎支部と佐賀支部をお訪ねしました。長く生きてきた割には長崎も佐賀も初めて訪れる地で、ワクワクしながら長崎空港に降り立ったのですが、やはり暑い。尚且つ、空気が綺麗な分日差しが強くてサングラスを忘れてきたのを後悔しました。

バスで市内に入り、路面電車に乗ってホテルに辿り着きましたが、まだ打合せには時間がありましたので、すぐ近くの大浦天主堂を訪ね、キリスト教布教の歴史を改めて学ばせてもらいました。ホテルが観光名所の大浦天主堂やグラバー園の近くにあるので観光客が多く、その中で圧倒的多数を占めるのが中国からのお客様で、改めてインバウンドの凄さを思い知りました。

長崎は海と山に挟まれた坂の多い街で、その坂がまた何とも言えない風情を醸し出していました。ホテルはすぐ目の前が港で、そこには巨大な船が停泊していて、自分も同行の先生方も、あれは船の形をしたホテルだと勘違いしていたくらいの迫力でした。

翌日の支部懇談会は快晴で猛暑の中、17組22名の保護者に参加していただき、和やかな中にも緊張感を持って開催されました。自分も少しお時間をいただいて育友会活動についてご説明し、山下校友会支部長のご挨拶、先生お二方と就職課長からのお話もスムーズに、最後に長崎県職員からのUターン就職とその取り組みについての話がありました。

支部長や支部役員さんとはいろんな話をさせていただきました。支部長と次期支部長の息子さんは体育会ラグビー部所属で、夏の合宿に行ってきたとか、試合を見に行くとか、そのバイタリティーには敬服しました。

さて、長崎支部懇談会も無事に終わり、支部の皆さんに別れを告げて会場を後にしました。長崎駅から特急かもめに乗って佐賀までは1時間15分程の移動、右側には時折有明海が見えては隠れ、東京では味わえない列車の旅です。

JR 佐賀駅到着。市の繁華街は駅から少し離れた場所にあるそうで、駅の周辺は静かで、長閑で居酒屋と駐車場ばかりが目につき、とにかく暑い。程無く支部長ご夫妻に校友会支部長、副支部長を交えて、翌日の打合せから会食となりました。佐賀支部については会員が少なく、毎年の支部懇談会参加者は10組に満たないことに加え、次期支部長選出も難航しているということです。ちなみに佐賀支部の光吉支部長は専大ボクシング部OBで、息子さんは体育会ラグビー部所属、前号の『育友』には親子で誌面に登場いただいております。

支部懇談会は支部長以外では4組6名のご参加でしたが、そのかわり出張の先生お二方と就職課長の計3人と全員が順番に面談でき、皆さん有意義だったと大変満足されていました。

全国には佐賀支部のように会員が少なく、運営も厳しい状況の支部がありますが、子供を同じ専修大学に進学させた縁ですので、その繋がりを何とか各支部で継続していただけるよう、本部役員としてはできる限りのサポートを事務局と共にしていきたいと思っています。

→大浦天主堂



↓長崎のホテルからの眺め

